

34 地域医療連携業務の現状について

病院医事管理課医療相談室 上野久美子、阿久根徹、粕谷陽子、酒井陽子
飯塚真理、金子淑子、下重敏子、金川愛、篠原あずさ

1. はじめに

平成 27 年度の業績発表会にて「地域連携業務の充実に向けた取り組みについて」を発表し、医療相談室の相談支援状況の報告、地域医療連携業務と医療福祉相談業務の分業化の推進を提言した。その後は段階を踏んで業務の効率化に向けた整理がなされつつある。今年度 4 月より 1 名（半日）、6 月よりさらに 1 名（終日）の看護師が新たに配置され、MSW と協同して「前方支援（入院相談）」「後方支援（退院調整）」に積極的に取り組んできた。本発表では、地域医療連携業務の現状と今後の展望について報告する。

2. 医療相談室の組織構成及び業務内容

【組織構成】医療相談室長（医師）1 名、退院支援看護師 2 名、MSW 5 名。

【業務内容】①前方支援（入院相談、受診調整、受診時の面談（アセスメント）、医療機関との連携 等）、②後方支援（在宅調整、転院調整、施設利用調整、復職・復学支援、介護・福祉サービス利用調整、医療サービス（往診・訪問看護など）利用調整 等）、③他院受診調整、④緊急対応（医療機関検索・連携等）、⑤訪問活動（医療機関訪問、地域連携会議参加）⑥その他（医療福祉相談、高次脳機能障害者家族学習会の開催等）

3. 地域医療連携業務の取り組み状況と今後の展望

今年度より看護師が配属されてから、前方支援（入院相談）の役割を看護師、後方支援（地域調整）の役割を MSW が重点的に担っている。おおまかに業務を分業化したことによって、それぞれの業務に集中して取り組むことができている。また、各担当が与えられた役割だけを遂行するのではなく、それぞれの専門分野の助言が聞けたり、お互いを補完しながら協同で業務を遂行することができており、専門職の垣根を越えた活発な意見交換もなされている。あわせて、医療相談室の看護師と病棟・外来看護師との連携が図られ、入院相談から入院、入院から退院支援の情報共有もしやすくなった。同様に、外来患者に関する情報共有や連絡調整も円滑になった。

現在、地域医療連携に関する検討会を月に 1 回開催しており、入院相談の流れの整備と退院支援の充実化を図っているところである。10 月下旬より、入院相談の受診後に医療相談室でのアセスメントを実施しており、退院支援に困難が予測される患者を絞り込んで、病棟への情報提供を手厚くしたり、その患者に対して重点的に退院調整が行えるようなシステムの整備を進めている。また、入院前から退院後までを見据えた「退院支援のフローシート」を作成し、円滑な退院支援ができるよう試行的に運用を開始している。これらをベースに退院支援加算が算定できるよう必要な整備を行う。

さらに、対外的な広報活動も継続して行っており、自立支援局総合相談課と共同で医療機関の訪問活動を進めているほか、先述の検討会にて当院の特徴や専門性がアピールできるようなチラシの作成も進めている。引き続き、地域連携業務の充実が図れるよう検討をすすめたい。